

# 英語を楽しく

No.270

## ☆ややこしい前置詞でも大切 -2



「at」と「to」

家の庭で親子が仲良くキャチボールをしている様子を見ました。そこで以下の英文を作りました。でも、①の at を使うべきか、それとも②の to を使うべきか迷っています。

① His son threw the ball at his father.

② His son threw the ball to his father.

①②共に彼の息子が父親にボールを投げたのですが、実は①②どちらにするかによって文の意味が違ってきます。

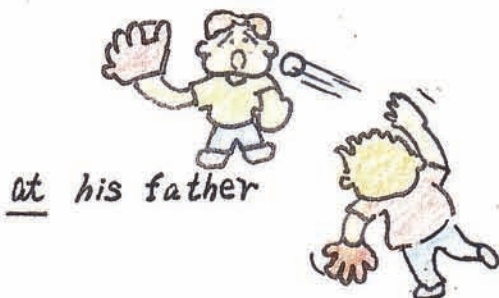
「at」は at six o'clock' とか at the corner のように「時」の一点を表現するとき使います。

「to」は to school や The girl ran to her mother. の to her mother のように「到着点や方向」を示すときに使います。

そうしますと、

① His son threw the ball at his father. は、ボールは父親に向かって（体に当たるよう意識的に）投げた、という表現になります。ところが、

② His son threw the ball to his father. は父親の方向に向かってボールを投げた、ということになり、ボールのやり取りの感じが出てきます。



英語では以上のように、「前置詞によって文の意味が決定する」のですが、ややこしいことと思わずに、英語のことが一つ一つわかっていく楽しさを体験できると思い、知る喜びを、味わってはどうか。